

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(令和3年8月)

～4度目の緊急事態宣言の発出、天候不順などで現状判断は低下～

- 景気ウォッチャー調査・8月調査の近畿地域の結果は、現状判断が36.2と前月比で4か月ぶりに低下した。先行き判断も43.9と2か月連続の低下となっている。
- 足元の景気については、8月上旬に大阪で4度目となる緊急事態宣言が発出、中旬には京都、兵庫にも拡大されたのに伴い、消費の停滞につながっている。今回は百貨店や大型商業施設などに休業の要請はなかったものの、飲食店では酒類が提供できず、営業時間も短縮となった。デルタ型変異株の猛威により、外出の自粛も進んだことで、都市部を中心に幅広い業種で売上の減少につながった。また、お盆期間を中心にした天候不順も、各業種で客足が減少する要因となっている。
- 8月下旬には東京五輪が始まり、自宅で観戦する動きが増えたことで、いわゆる巣籠り消費はスーパーを中心に盛り上がったものの、消費全体に対する影響は限定的なものにとどまっている。
- 一方、先行きについては、緊急事態宣言が延長となるとの見方が多く、外食や宿泊関連を中心に、引き続き経営への深刻な影響が不安視されている。都市部の往来減少による、百貨店やコンビニといった小売関連でも不安の声は多い。
- ワクチン接種の動きが進む一方、ここへきて、その効果への期待がややトーンダウンしている。今回のデルタ型変異株の感染拡大が、一定のワクチン接種後に発生したことがその一因である。いわゆるブレークスルー感染の報道もあり、ワクチンの接種が進んでも、景気の回復には時間がかかるとの見方が増えつつある。

「五輪」関連のコメント(現状判断)

家計動向関連	なやや良くなる	スーパー(経営者)	・天候に比較的恵まれたほか、東京オリンピックの自宅観戦に伴う需要も伸びた。さらに、お盆休み中も新型コロナウイルスの感染が拡大し、雨の影響で遠出する人も大幅に減少した結果、本来悪天候は売上のマイナス要素となるが、プラスにつながった。月下旬は都市部だけでなく、郊外でも夜間の外食が減ったことで、夜の時間帯も好調に推移している。
	変わらない	一般小売店[時計](経営者)	・東京オリンピックの終了後、連日の大雨で客足が遠のいた。新型コロナウイルスの感染者数も倍増しており、連日のマスコミ報道で客足が更に減少した。ワクチン接種を済ませた高齢者は増えているが、基本的に不要不急の外出は控えている様子は、会話の端々から感じられる。なるべく外出を控えるということは、客足の減少につながることを意味する。
		百貨店(販売推進担当)	・8月上旬は、東京オリンピックの影響もあって来店の動きが鈍かったほか、中旬以降は百貨店での新型コロナウイルス感染症のクラスター関連報道を受けて、入場規制を行った。それに伴い、更に来客数が減っており、3か月前の水準に戻っている。
		スーパー(経理担当)	・緊急事態宣言が延長となり、内食需要の増加が継続するなか、これまでよりも売上の若干の上積みがあった。東京オリンピックが開催され、家での観戦需要が多少の上乗せになったと感じられる。
	やや悪くなっている	百貨店(商品担当)	・東京オリンピックの開催以降、新型コロナウイルスの感染が全国的に急拡大した。現状は、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置による行動制限により、購買意欲はかなり抑制されている。今年は雨が多かったため、猛暑や新型コロナウイルスの影響で不調となった前年も下回った。特に、都市型店舗は前々年比で6割弱の厳しい水準となっている。また、同業の商業施設で感染が多く発生した影響もあり、月後半は更に厳しい状況にある。
		家電量販店(人事担当)	・前線の停滞による長雨により、気温が上がりきらず、エアコンなどの季節商材の売上が伸びない。巣籠り消費の反動減の影響もあり、東京オリンピックによる需要といえるような、売上げをけん引する商品がない。
悪くなっている	一般レストラン(企画)	・緊急事態宣言の発出や東京オリンピックの開催、長雨の影響などで、売上の前年比はここ3か月では最低となった。減少率は、前月よりも10ポイント悪化している。	
	旅行代理店(支店長)	・新型コロナウイルス変異株の感染拡大があり、いつ収束するのかが客にも見通せない。ワクチンの接種が進み、東京オリンピックが終わる頃には、先行きの見通しが立つと考えていただけに落胆が大きい。感染が落ち着けば、旅行に行きたいという声は多いが、行動には全くつながっていない。	

「天候不順」関連のコメント(現状判断)

やや良くなっている	スーパー (経営者)	・天候に比較的恵まれたほか、東京オリンピックの自宅観戦に伴う需要も伸びた。さらに、お盆休み中も新型コロナウイルスの感染が拡大し、雨の影響で遠出する人も大幅に減少した結果、本来悪天候は売上のマイナス要素となるが、プラスにつながった。月下旬は都市部だけでなく、郊外でも夜間の外食が減ったことで、夜の時間帯も好調に推移している。	
	スーパー (企画担当)	・8月は悪天候が続き、お盆の期間もともに雨の影響を受け、お盆用商材の売行きは悪かった。一方、ふだんから売れている総菜やパン、精肉などは堅調に推移している。また、緊急事態宣言が発出されたことで、備蓄アイテムがよく売れている。	
	都市型ホテル (フロント)	・高校野球が雨で順延となった影響で、関係者の宿泊がその分伸びたほか、別のスポーツ大会も近隣で開催されたため、参加者の宿泊によって稼働率が上がっている。	
変わらない	一般小売店 [時計] (経営者)	・東京オリンピックの終了後、連日の大雨で客足が遠のいた。新型コロナウイルスの感染者数も倍増しており、連日のマスコミ報道で客足が更に減少した。ワクチン接種を済ませた高齢者は増えているが、基本的に不要不急の外出は控えている様子は、会話の端々から感じられる。なるべく外出を控えるということは、客足の減少につながることを意味する。	
	一般小売店 [菓子] (営業担当)	・お盆前からの長雨の影響で、飲料や果物といった水物商材の需要が伸びず、販売量が落ち込んでいる。	
	コンビニ (店員)	・新型コロナウイルスの感染拡大や長雨の影響で、客足が少ない。	
	コンビニ (店員)	・夏休みに入り、少し来客数が増えていたが、月中旬からの長雨で激減している。	
	その他専門店 [ガソリンスタンド] (経理担当)	・緊急事態宣言の再発出に加えて、異常な長雨により、ガソリンの販売量は前年比で減少している。	
	その他専門店 [スポーツ用品] (経理担当)	・新型コロナウイルスの影響に加え、雨の被害などで野菜類の価格が高騰しているが、価格が高くても買う層と、高ければ買わない層は常に存在する。これは景気の変動要素ではなく、むしろ今月は、雨の被害からの復興事業による効果の方が大きい。	
やや悪くなっている	百貨店 (売場主任)	・今月は天候不順による季節商材の売上不調や、新型コロナウイルスの感染者数の増加で、来客数が減少している。それに伴い、売上は今月の目標、前年の水準共に下回りそうである。一部の富裕層を対象とした商品は好調であるが、大半の商品は苦戦している。客の消費を抑える傾向や、不要不急の商品の購入を控える傾向は、より一層鮮明となっている。	
	百貨店 (企画担当)	・8月は新型コロナウイルスと長雨で、来客数が前年よりも減少している。お盆期間中はやや前年の水準に近づいたが、4度目の緊急事態宣言の発出後は、来客数が極端に減少している。	
	百貨店 (マネージャー)	・富裕層中心の特選部門の動きは堅調であるが、緊急事態宣言による入店制限などの影響で、中間ボリューム層の売上回復は大きく後退した。食品部門ではレストランの売上が前年比で26%減少、菓子も5%減少となっている。また、天候要因もあるが、紳士や婦人服、雑貨関連も18%減少と大きく減っている。	
	百貨店 (販促担当)	・新型コロナウイルスの感染者数の増加に伴い、前年比で来客数が大きく減少している。堅調であった食品の売上に大きく影響したほか、苦戦気味のファッション関連では天候不良も重なり、夏物商戦が不調となっている。	
	百貨店 (マネージャー)	・8月20日から、京都ではまん延防止等重点措置から緊急事態宣言に移行した。それ以前から、新型コロナウイルス感染症へのおそれのほか、暑さや大雨によって来客数が伸びておらず、売上に悪影響が出ている。また、定期的に季節の端境期でもあり、秋物商材の早い仕掛けも、余り購買にはつながっていない。	
	百貨店 (商品担当)	・東京オリンピックの開催以降、新型コロナウイルスの感染が全国的に急拡大した。現状は、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置による行動制限により、購買意欲はかなり抑制されている。今年は雨が多かったため、猛暑や新型コロナウイルスの影響で不調となった前年も下回った。特に、都市型店舗は前々年比で6割弱の厳しい水準となっている。また、同業の商業施設で感染が多く発生した影響もあり、月後半は更に厳しい状況にある。	
	スーパー (店員)	・悪天候が続き、来客数もかなり落ち込んだことで、売上も伸び悩んでいる。	
	コンビニ (経営者)	・緊急事態宣言の発出で、在宅勤務者は一定の水準を維持しているほか、長雨の影響もあり、来客数は減少している。	
	コンビニ (店長)	・緊急事態宣言が再発出されたほか、例年よりも雨が多く、天候が悪かった影響が出ている。	
	衣料品専門店 (店長)	・緊急事態宣言が発出されている。3か月前には夏物商材の動きが少しみられたが、8月以降の酷暑やお盆前後の悪天候で来客数が激減し、苦戦している。	
	家電量販店 (人事担当)	・前線の停滞による長雨により、気温が上がりきらず、エアコンなどの季節商材の売上が伸びない。巣籠り消費の反動減の影響もあり、東京オリンピックによる需要といえるような、売上をけん引する商品がない。	
	高級レストラン (スタッフ)	・外出の自粛や長雨の影響もあり、遠出を避ける人が増えた。最終的には、直前に予約が満席になることも多かったが、お盆明けからは再び自粛ムードが高まり、予約のキャンセルも幾つか発生している。	
	一般レストラン (企画)	・緊急事態宣言の発出や東京オリンピックの開催、長雨の影響などで、売上の前年比はここ3か月では最低となった。減少率は、前月よりも10ポイント悪化している。	
	その他レジャー施設 [飲食・物販系滞在型施設] (企画担当)	・コロナ禍の影響に加え、8月の長雨によって苦戦している。	
	悪くなっている	スーパー (企画担当)	・8月に入って、来客数が前年比で77%とかなり落ち込んでいる。これは長雨による影響だけではない。

企業動向関連	な っ て い る	食料品製造業（従業員）	・お盆期間中も大雨が続き、その後は緊急事態宣言の発出で、自宅で過ごす時間が長くなったせいか、家庭用製品の販売量が増加した。業務用は苦戦しているが、全体的にプラスになっている。
	な っ て い る	電気機械器具製造業（宣伝担当） その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・緊急事態宣言や、大雨、気温の低下といった影響もあり、エアコンの売上は前年、前々年を大幅に割り込む状況で、その他の商品も低調な荷動きとなっている。 ・駅ナカ店舗にとって、お盆商戦は上期最大の繁忙期であるが、今年は全くと言ってよいほど振るわなかった。帰省の自粛による影響は計り知れず、更に追い打ちを掛けるように大雨に見舞われた影響が大きい。

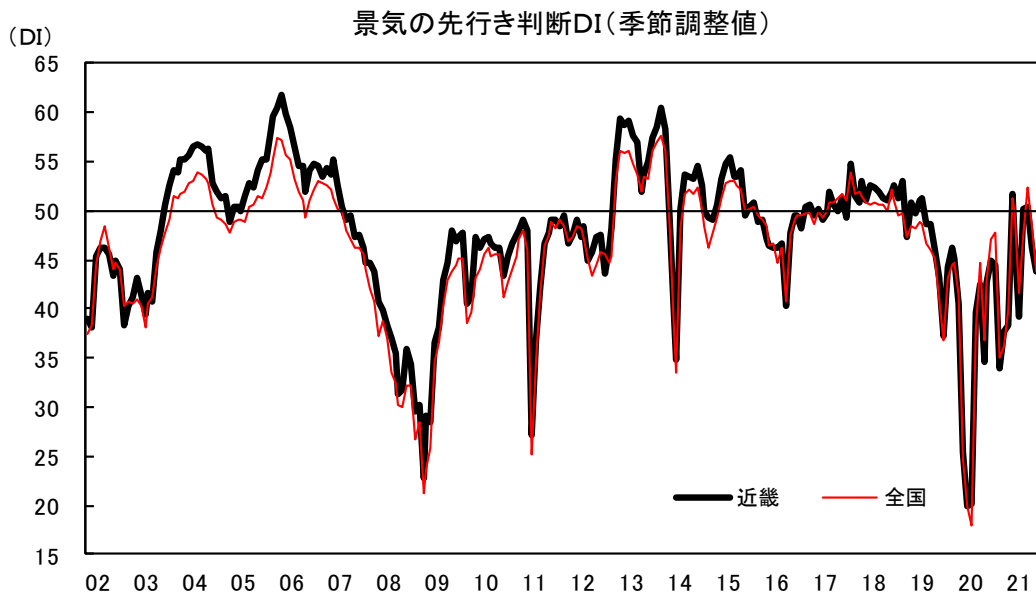
「ワクチン」関連のコメント(先行き判断)

家計動向関連	や や 良 く な る	一般小売店〔珈琲〕（経営者）	・ワクチンを接種した人が積極的に外出し始めているため、今後の接種の増加に伴い、人の動きが増えてくると予想している。
		百貨店（販促担当）	・ワクチン接種率の拡大で、8～9月がコロナ禍による影響のピークと予想され、街への人出の回復も期待される。長らく我慢が続くなか、年末には少し自分への御褒美消費が出てくる。外出の自粛が続く場合も、少しぜいたくな自宅でのクリスマスなど、消費意欲は今よりも高まると予想される。
		百貨店（マネージャー）	・ワクチン接種が若い世代にも進み、3か月後には新型コロナウイルスの感染も収まってくる。ただし、本格的な回復にはまだ時間が掛かる。
		百貨店（外商担当）	・ワクチン接種の増加による効果や、新型コロナウイルスの感染者数のピークアウトを前提に、今年の9～10月はイベントや催事など、富裕層に向けた販売促進活動を実施する予定である。
		都市型ホテル（販売促進担当）	・正直なところ分からないが、ある程度は新型コロナウイルスの感染者数やワクチン接種数の影響を受ける。宿泊の予約では、9月は少し入っているが、10月以降は直近にならないと分からない。ただし、ワクチン接種数が増えれば、景気も良くなるという期待はある。
		旅行代理店（店長）	・ワクチン接種が進み、新型コロナウイルスの感染者数が減ってくれば、需要が戻ってくると期待したい。
		旅行代理店（役員）	・ワクチン接種の加速による、新型コロナウイルスの感染ステージの改善という他力本願しかない。県民割がスタートする予定で期待しているが、いつになるかは分からず、客も動きにくい状況である。
		観光名所（経理担当）	・11月頃には、若い世代でもかなりの割合の希望者が、ワクチンを2回接種していると予想される。
		ゴルフ場（支配人）	・ワクチン接種率が上昇すれば、集団免疫の観点から、新型コロナウイルスの感染の急拡大が止まる。社会全体がコロナ禍前の状態に近づけば、来客数は増加すると予想している。
		その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・ワクチン接種の進行でやや良くなる。
変 わ ら な い	一般小売店〔時計〕（経営者）	・最近ではワクチンについて心配になるニュースが増えている。楽観になれる材料がほとんどない状況で、今後は時計が一部で値上げになるとの話も、メーカーから出てきている。この数か月で時計以外の物も値上がりするなか、現状維持が精一杯であり、先行きが良くなる見通しはない。	
	百貨店（売場主任）	・ワクチンの接種が進めば、新型コロナウイルスの感染が抑えられ、客の来店も増えることが期待される。ただし、仮にそうだったとしても、消費が以前のような水準に戻るには時間が掛かる。特に、ファッション関連や雑貨は、商品の生産が大幅に抑えられているため、数か月で回復するとは考えにくい。	
	百貨店（販売推進担当）	・ワクチン接種が進んでも、現在のように新型コロナウイルスの感染者数で一喜一憂する状況が続くようであれば、情勢としては何も変わらない。	
	百貨店（外商担当）	・ワクチン接種が進み、40代以下の新型コロナウイルスの感染が落ち着けば、景気も回復するが、全く見通しは立たない。	
	百貨店（売場マネージャー）	・ワクチンの接種が進むが、新型コロナウイルス変異株の感染力は強く、現状から回復基調になるとは考えにくい。	
	百貨店（売場マネージャー）	・ワクチンの接種が進む中でも、新型コロナウイルスの感染が拡大している。当社の商圏内の感染率も上がってきており、厳しい状況が当分続くと予想される。	
	百貨店（マネージャー）	・全体的なワクチン接種の進展で一定の効果が見込まれるものの、大きな改善効果は期待できない。緊急事態宣言などの解除の見通しが立たないなか、人流抑制策などによる影響に振り回される状況が続く。また、それらへの慣れによる購買活動も散見されるため、全体としては小康状態が続く。	
	百貨店（店長）	・ワクチン接種率ももっと上がってくれば、新型コロナウイルスの感染者数は徐々に減るが、その予想を裏付ける物が何もない。今は不安をあおっているだけなので、良くなる要素はない。	
	スーパー（経営者）	・ワクチン接種は進むが、医療体制が大幅に改善するまでは外食需要は盛り上がりせず、その分スーパーでの買物が続くとは予想される。ただし、今後は原料価格の高騰による商品の値上げが相次ぐため、それが重しになりそうである。	
	スーパー（店長）	・ワクチン接種は進んでいるものの、新型コロナウイルスの感染者数は増えている状況で、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置などの解除はなさそうである。それに伴い、買物や飲食、旅行などを控える人は今後も多いと予想される。	
スーパー（企画担当）	・現状は高止まりしている新型コロナウイルスの感染者数も、ワクチン接種者が増えることで、徐々に減る。今後、外食の制限が緩和されれば、家庭での内食需要も弱まり、売上に影響が出てくる。		

家計動向関連	変わらない	スーパー（経理担当）	・ワクチン接種が進み、社会活動が活発化することによって内食需要は少し減少するが、経済の活性化が進む好影響の方が大きい。消費者の心理に対しては、新型コロナウイルスの感染者数の減少も大きな要素となる。	
		スーパー（開発担当）	・ワクチン接種率は余り上らず、客の様子を見ても、一度に多く購入して来店回数を減らしている。景気が良くなるどころではない。	
		コンビニ（経営者）	・ワクチン接種が広まり、緊急事態宣言は解除されると予想されるが、企業が在宅勤務を推奨する風潮は定着しているため、来客数は以前の水準には戻らないことが懸念される。	
		衣料品専門店（店長）	・例年であれば、秋物商戦で来客数が増える時期となるが、今年は期待できない。ワクチン接種が進みつつあるものの、若い世代で新型コロナウイルスの感染者数が増えている。それに伴い、今までは大人から子供への感染が多かったが、今は家庭内で子供から大人に感染するという話をよく聞く。このまま悪い状況が続くそうである。	
		乗用車販売店（販売担当）	・ワクチン接種率がどこまで上がり、治療薬の開発がどこまで進むのかは不透明である。先行きに明るい希望が欲しい。	
		その他専門店〔医薬品〕（管理担当）	・ワクチン接種の広がりといったプラス要素はみられるが、現状は緊急事態宣言の範囲が拡大するなど、景気が良くなる状況は見込めない。ただし、生活必需品の動きは現状維持が予想される。	
		観光型ホテル（経営者）	・観光業では、コロナ禍が致命的な問題となっている。ワクチンの接種率が上がり、治療法が確立されない限り、今の状態が続くと予想される。1日も早くコロナ禍が収束に向かうよう願っている。	
		遊園地（経営者）	・緊急事態宣言の発出により事業活動の制限が続いている。新型コロナウイルスの感染者数は増加の一途であるため、現時点で将来に明るい見通しを持つことができない。全世代へのワクチン接種の早期実現を願いつつも、それで全てが好転するかについては懐疑的でもある。	
やや悪くなる	やや悪くなる	その他サービス〔学習塾〕（スタッフ）	・ワクチン接種の進み具合や、その効果により、今後の状況は変わってくる。	
		百貨店（マネージャー）	・京都市内を中心にワクチン供給が遅れており、2回の接種完了までの見通しが立っていないため、来客数は短期間では戻らない。秋冬物の重衣料の動きは、行楽や外出といった需要に左右される部分もあり、購買意欲が高まる要素は少ないと予想している。	
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスの感染者数が増えているが、テレワークが増え、ワクチン接種の効果も出てくれば、今後は減少に向かう。ただし、来客数は今の状態が続き、前年比で20%以上減少すると予想される。	
悪くなる	悪くなる	観光型ホテル（客室担当）	・新型コロナウイルスの感染については、若年層のワクチン接種が完了するまでは収束しない。	
		百貨店（売場主任）	・新型コロナウイルスの感染状況について、好転するきっかけがつかめない。ワクチン接種だけでなく、治療薬も含めた、感染対策の進展を期待している。	
		衣料品専門店（経営者）	・ワクチンを接種しても、新型コロナウイルスの感染者数が増えている以上、年内に景気が回復する見込みは立たない。	
		家電量販店（店員）	・緊急事態宣言により、新型コロナウイルスの感染者数が減少しない限り、景気の悪化は避けられない。若年層へのワクチン接種が急務であり、感染の収束が見込めれば、景気の回復も期待できる。	
		乗用車販売店（経営者）	・新型コロナウイルスの感染収束時期が見通せない以上、今後の景気回復には期待できない。ワクチン接種も若年層の間では広がっていない。今後、持ちこたえられない飲食店やレジャー施設が増えて、経済活動に支障が出ることで、景気は低迷すると予想される。	
		その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・ワクチン接種が進んでも、新型コロナウイルス変異株の感染拡大は止まらない。自粛疲れで外出する人がいるかもしれないが、客足も増えそうにない。	
企業動向関連	やや良くなる	都市型ホテル（客室担当）	・東京オリンピック・パラリンピックで明るい話題が増えているが、新型コロナウイルスの感染拡大による、緊急事態宣言の発出やまん延防止等重点措置の適用で、更に客足が遠のくと予想される。ワクチン接種の拡大による、感染の抑制に期待している。	
		化学工業（企画担当）	・年末の食品需要期が近づくほか、ワクチン接種が進み、消費の拡大が再開すると予想される。	
	変わらない	変わらない	金融業（副支店長）	・ワクチン接種率も徐々に上がってきているため、新型コロナウイルスの感染拡大は落ち着くと予想され、景気も少し回復してくる。
			化学工業（経営者）	・ワクチン接種率の上昇による、新型コロナウイルスの感染収束を期待したいが、ワクチンを打たない人が一定数以上いる限り、1日に2万～3万人が感染する可能性があり、緊急事態宣言はいつまでたっても解除されることはない。重症化しないワクチン接種者も増えているため、そろそろ報道も日々の感染者数の報道はやめて、重症者数と死者数だけで判断すればよい。緊急事態宣言の解除条件も、重症者数や病床使用率、死者数に変更した方がよいと考えられる。
			窯業・土石製品製造業（管理担当）	・新型コロナウイルス変異株の感染が拡大するなど、明るい材料はないが、ワクチン接種は進んでいるため、大きな変化はないと予想される。
			金融業〔投資運用業〕（代表）	・冬頃までにワクチン接種は完了するため、それ以降は徐々に新型コロナウイルスの感染も落ち着いてくる。その後を追うように経済の回復は始まるが、本格的な回復はやはり年明け以降と予想される。
			司法書士	・ワクチンの接種が進み、新型コロナウイルスの感染者数が減少傾向にならない限り難しい。
			その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・ワクチン接種が思うように進まないなか、程度の差こそあれ、医療体制のひっ迫は続くことになる。それに伴い、年末にかけても、外出の自粛や各店の営業自粛が続くと予想される。

企業関連	やや悪くなる	繊維工業（総務担当）	・ここ2～3か月、靴下の販売状況は急激に悪化した。特にスポーツ用の商品が顕著である。新型コロナウイルスの感染者数の急激な増加によるものであり、ワクチン接種により感染状況が好転しなければ、この状況からの変化は期待できない。
		出版・印刷・同関連産業（企画営業担当）	・ワクチン接種が進むとはいえ、新型コロナウイルスの長期的な影響により、受注量の急回復はないと予想される。
		その他非製造業〔商社〕（営業担当）	・緊急事態宣言の解除時期やワクチン接種後の状況が見通せない。現時点では、人流を抑える方針が続くように感じる。
雇用関連	やや良くなる	人材派遣会社（営業担当）	・ワクチン接種が進み、企業の間でも増員などの話が出てきている。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染者数が増えているため、今後も各種書類の審査やワクチン接種の受付といった、特需による求人が入ってくる。
	変わらない	人材派遣会社（役員）	・ワクチン接種者が増えても、新型コロナウイルスの感染者数が増え続けている。感染対策を経済重視に転換しない限り、景気の回復は遅れる。
		人材派遣会社（営業担当）	・ワクチン接種以外の、政府の具体的な景気対策がない。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・ワクチン接種が進んでおり、今後新型コロナウイルスの感染が収束する可能性も出てきたが、この2～3か月で変化があるとは考えにくい。
		職業安定所（職員）	・求人は底堅く推移しているが、求職については、ワクチンの接種を終えて活動を再開する人と、新型コロナウイルスの感染を心配して活動を見送る人がみられ、全体的には不安定になっている。
		職業安定所（職員）	・ハローワークの窓口では、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、しばらく求職活動は様子を見たいという声や、ワクチン接種後に積極的に活動したいといった声が多い。
		学校〔大学〕（就職担当）	・ワクチンの接種状況に加え、新型コロナウイルスの感染収束がみられなければ、景気が良くなると思えない。
	やや悪くなる	新聞社〔求人広告〕（管理担当）	・緊急事態宣言が発出されても人流が減少しておらず、効果的とはいえない。政府の施策も後手に回っており、成果が全く出ていない。感染力の強い、新型コロナウイルス変異株の感染拡大は今後も続くとみられ、ワクチンの接種も遅れている。景気が良くなる気配は全くなく、国内のワクチン接種者数が欧米並みになると予想される11月頃までは、景気の悪化が予想される。
		職業安定所（職員）	・6月以降の特徴として、求職活動はワクチンを接種してからという傾向が顕著であったが、最近は接種をしても不安が強く、当分は求職活動も控えたいという動きが強まりつつある。それに伴い、企業も人材の確保が難しくなり、経済活動にも影響が出てくる。

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		19年				20年								21年												
		8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
現 状 判 断	近畿	44.6	47.6	36.5	37.4	38.0	42.4	26.1	14.7	8.3	19.6	39.3	42.0	43.4	46.7	49.2	39.9	31.7	31.7	42.4	49.8	33.3	38.2	49.3	49.7	36.2
	(全国)	43.0	44.9	35.9	37.2	38.3	41.9	27.9	14.9	9.4	17.0	40.0	42.2	43.7	47.8	53.0	43.8	34.3	31.2	41.3	49.0	39.1	38.1	47.6	48.4	34.7
先 行 き 判 断	近畿	43.2	37.2	44.2	46.1	45.2	40.4	25.3	20.0	20.2	39.6	42.5	34.6	42.8	44.9	44.4	33.9	37.6	38.4	51.6	46.9	39.2	50.1	50.3	46.2	43.9
	(全国)	40.9	36.8	43.1	44.5	44.6	41.4	24.8	19.8	17.9	37.9	44.6	36.7	42.9	47.1	47.7	35.0	36.1	39.9	51.3	49.8	41.7	47.6	52.4	48.4	43.7

※季節調整値